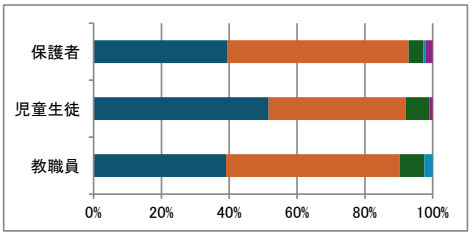
令和６年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

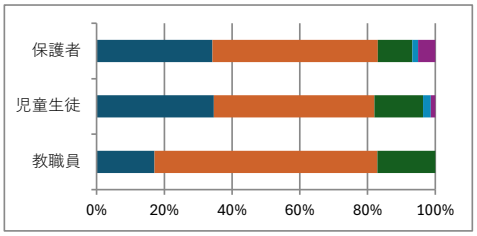
１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２自ら学びに向かう力を育む教育の推進

学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



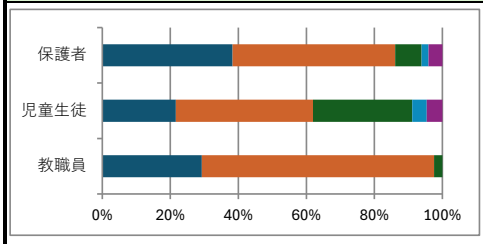
考察

「１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」の項目について、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答の割合が8割を超える結果となった。また、昨年度に比べ、保護者の肯定的な意見が増加している傾向がある。ただ、児童や教職員の肯定的な回答の割合がやや低い傾向である。したがって、児童に対しては、児童の思いや考えをよく聞き、それぞれの個性や考え方を大切にすることを意識した指導を全職員で行っていく必要があると考えられる。
本年度は、校内研修でローテーション道徳を位置づけ、教材研究を通して公開授業を行った。今後も児童が「学校が楽しい」と感じられるよう、保護者との協力体制を図りながら教育の充実に取り組んでいきたい。
(1)2の項目について、「そう思う・どちらかといえば、そう思う」の回答の割合が保護者、児童生徒、教職員ともに８割であった。しかし、教職員に関しては、「そう思う」が低い割合となった。教師主導の授業展開、学習課題ではなく、子どもたちが「学びたい」「知りたい」と思えるような授業づくりを全職員で目指して、日々の授業改善に取り組んでいく必要があると考える。

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）



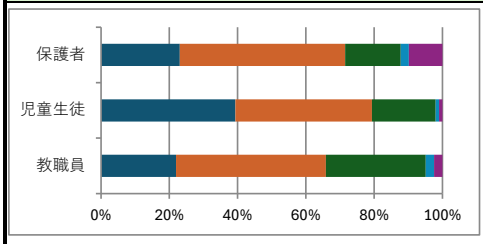
考察

「３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」の項目については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の回答の割合が保護者が８割なのに対して、児童は６割と差がある。したがって、学級活動や委員会活動などを通して、児童が主体的に取り組める場を積極的に作る必要があると考えられる。

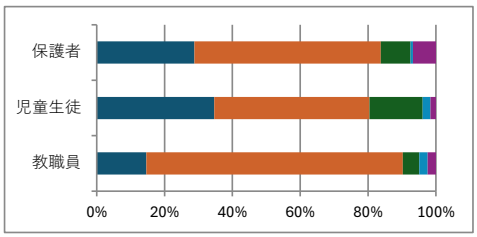
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４５個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。



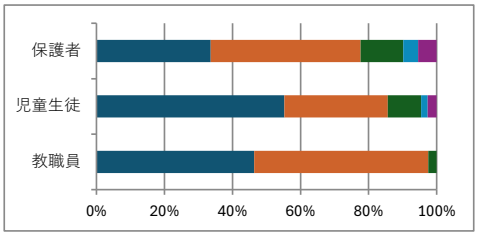
考察

4の項目は、「そう思う・どちらかといえば、そう思う」の回答の割合が、児童は８割、保護者及び教職員は７割前後となった。教師から与えられたものを学習していくのではなく、児童が自ら選んで、学習を進めていくような授業も取り入れていく必要がある。
5の項目は、「そう思う・どちらかといえば、そう思う」の回答の割合が、教職員は９割と高かった。一方で保護者、児童は８割程度と、教職員の結果を少し下回った。対話をすることで、学習が深まるという良さを感じ取らせると共に、必要感を感じることができる場面で、対話を取り入れることが必要だと感じる。

（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

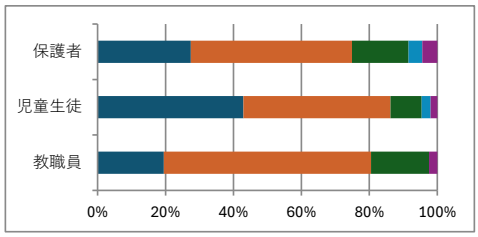
６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



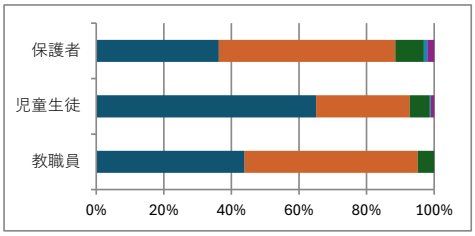
考察

「６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」の項目では、児童の「そう思う」の回答の割合が１番高い。「どちらかといえば、そう思う」を含めると教職員の回答の割合は９割を超えているものの、保護者や児童との回答の割合とは差が見られる。温かな学級風土を醸成し、相談したり助けを求めたりしやすい環境を学校全体で整えていく必要がある。
「７　インクルーシブ教育の推進」の項目では、「そう思う、どちらかといえばそう思う」の児童の回答の割合がおよそ９割である一方で、保護者の回答の割合は８割弱と低かった。今後も正しい理解と認識を深めていくために「交流及び共同学習」を積極的に進めるとともに、啓発を図りながら互いの理解が深まるようにしていく必要がある。

（3）最適な教育環境の整備

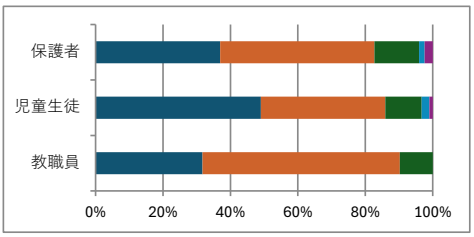
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

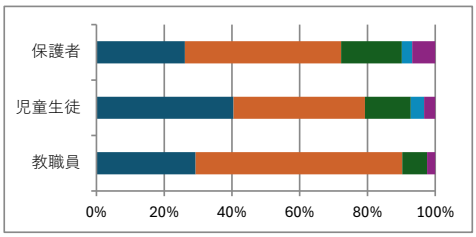


「８安全・安心な園づくりの推進」の項目については、昨年度に比べて「そう思う」と回答した保護者と教職員の割合は高くなっているが、児童生徒の割合は低くなっている。児童にとって安全や防災に関するルールが「守らなければならないもの」になっているからだと考えられる。そのため、ルールが設定されている目的を伝えることや「安全の日」の取組を通して、安全への意識を高めていくことができると考える。
９「地域や家庭と連携した教育環境の整備」の項目については、保護者の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答の割合は昨年度と変わらないが、教職員が若干低くなっている。学校から積極的に情報を発信しながら、保護者や地域の方が授業や行事に参加してもらう機会をつくり、連携を図っていきたい。

（4）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

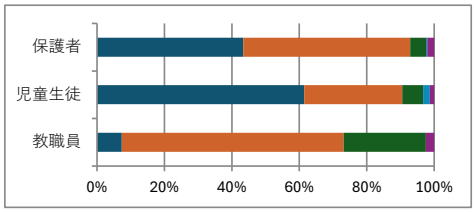


「10　こどもの最善の利益を守る環境づくり」の項目については、児童や保護者の回答の割合をみると全体的に「どちらかといえば、そう思う」が半数を占めている。教育相談も事前に懇談会等で呼びかけるなど、相談しやすい雰囲気づくりをする必要がある。校内支援委員会を核として、チームで対応しているが、保護者へもその取り組みを分かりやすく伝えていく必要がある。

独自項目

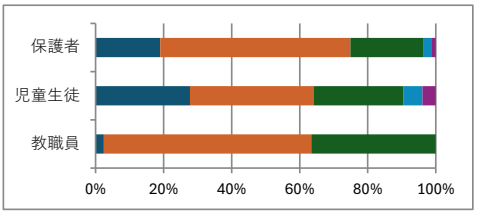
独自項目1

こどもは、自分自身と他の人を大切にしていると思いますか。



独自項目2

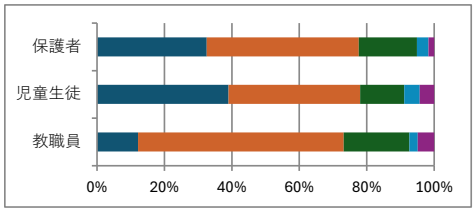
こどもは、話をよく聞き、自分の思いや考えを発表することができていると思いますか。



独自項目１については、肯定的な意見の回答の割合が、保護者と児童は９割を超えているのに対して、教職員の回答の割合は７割にとどまっている。学校で起こるトラブルに関しては、担任一人で抱え込まず、学年や生徒指導部と連携を図りながら、全職員で児童に関わっていくことが大切だと考える。また、自分や友達を大切にできる児童を育むために道徳教育や人権教育に丁寧に取り組んでいくことが大切であると考える。
独自項目２では、保護者の回答の割合が８割弱、児童及び教職員の回答の割合は６割が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」とかなり低い結果となった。教職員や友達の話を聞くことができていないと感じていることから、日々の授業中で教職員の話や友達の発表などをしっかりと「きく」という指導を徹底して行い、そこから対話的で深い学びへとつなげていきたい。

独自項目3

こどもは、体力向上に努めていると思いますか。



独自項目３については、昨年度と比べて、保護者の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答の割合は大きな変化はなかった。しかし、児童と教職員の「そう思う」の回答の割合が1割減少した。今年度は熱中症対策として、熱中症アラートをもとに運動場で遊ぶことを制限する日が多かった。そのため、室内で過ごす児童が増えたことが理由だと考えられる。教科体育等の取り組みを充実させたり、体育委員会や企画委員会を中心に遊ぶきっかけを作ったりすることで、運動することを習慣化できるよう取り組んでいきたい。

来　年　度　の　具　体　的　な　取　組　に　つ　い　て

〇学年全体で児童一人一人の豊かな心と健やかな体の育成するために、「道徳の授業」と体験活動を関連付けて取り組む。また、ローテーション道徳を行い、教師の持ち味を生かしていく。さらに、「きずなアンケート」や「心のアンケート」も工夫をしながら実施し、児童の一人一人の実態把握と個に応じた指導に努めていきたい。
〇児童が自ら学びに向かって学習を進めるような授業展開を目指し、授業の導入で児童の振り返りから本時の目標を設定するために、振り返りシートを作成し、学校全体で共通実践を行う。
〇三和中校区の共通実践である「ききかたあいうえお」をもとに、児童の「きく」ことに対する指導を徹底する。また対話のスキルを高めるために、「ハッピータイム」の時間を活用して、児童が「きく」ためのスキルと「伝える」ためのスキルの両方を高め、より深い学びへとつなげていけるように取り組んでいく。
〇教科体育等の取り組みを充実させたり、体育委員会や企画委員会を中心に遊ぶきっかけを作ったりすることで、外遊びの奨励を継続・発展させるとともに、児童が自発的に運動できる環境づくりに取り組んでいきたい。
〇毎年行っている「校則の見直し」を、１学期、企画委員会と生活委員会で協力し、どのように見直していくかを話し合う。それをもとに、４年生以上に周知して、各学級で話し合い、児童の意見として集約する。
〇「６　特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」の項目については、特別支援コーディネーターを中心に校内支援委員会やケース会議の充実を図り、多様なニーズに組織的に対応できるようにしていく。
〇「７　インクルーシブ教育の推進」の項目については、学年に応じた啓発活動（学級通信で様子を紹介）、新入生保護者会での特別支援教育の説明、学習発表会での発表などを通してインクルーシブ教育についての理解を図っていく。
〇夏休みの教育相談では、事前に懇談会や学年通信等で呼びかける。校内支援委員会では各学年の実態を共通理解し、全職員で情報を共有しながらチームで対応していく。
〇安全の日を周知し、取り組みの充実を図る。そのために、放送委員会による放送などで安全の日であることを周知したり、児童自身の目線でも安全点検を行ったりする。
〇ホームページや学校だより、学級通信等で学校の情報を積極的に発信し、授業や行事で保護者や地域の方へ協力を呼びかけて連携を図り、社会に開かれた教育課程にしていく。

小　中　学　校　関　係　者　評　価

〇最近はよく教員不足のニュースが報道され、先生方のご苦労が絶えない中ではありますが、毎回学校を訪問すると子ども達の元気なあいさつや活発に活動する様子又、整備された校内を見ることができうれしく感じられると同時に先生方の日頃からのご尽力に感謝申し上げます。私達も地域の保育園として卒園していく子ども達を安心して送り出すことができています。

〇前年度、今年度、いつも問題になる児童から児童への挨拶運動がはっきり分かりません。私自身は、声かけますが最近、反応が今いちに感じます。学校の方針をお聞きしたいです。

〇城山校区だけではありませんが、自転車利用時のヘルメット未着用やスマートフォンで電話しながらのながら運転をしている子供を見かける時があります。本来は各家庭で指導しないといけないのですが、交通事故にも繋がりますので、保護者への通知も含め再度指導が必要かと思います。

〇学校に足を運ぶ機会が少ないため、授業参観の時に一度行かせてもらいました。保護者の方もいらして元気な子どもさんの姿を拝見し、ほほえましいと思いました。

〇学校の前の道路を通る時、目にするのは横断歩道の信号が変わり渡り終わった子どもさんがとまってくれた自動車の方を向き、おじきをする姿です。よく教育されているなと嬉しく思います。

〇学校への登下校のルートの中には、危険箇所も多いのがひとつ心配な面ではあります。PTAへの加入が少ないとの事でしたが、地域の方々や民生委員、また保護者の見守りの大切さなどを検討され協力しながら安全の確保をと願うばかりです。健やかに思いやりあふれる子どもにと成長してほしいと思います。